

子どもは喜びの方へ伸びていく

ある先輩校長が書かれた本の中に、「ポケットの中身」と題してこんな文章がのっていました。

「先輩から教わった『先生の心得』の一つです。先生のポケットの中にいつも入れておかなければならない言葉があります。子どもに対する『さすが』という言葉です。親のポケットも同じですね。入っていますか。子どもをほめる『さすが』という言葉。」

また、こんな文章もありました。

「子どもが求めているのは、口先だけの褒め言葉ではなく、先生が、親が本気で喜んでいるということです。草木が太陽の方向に伸びるように、子どもは喜びの方向に伸びるものなのです。口先のおだてではなく、体中で喜ぶことに努力しましょう。」

太陽に草木が伸びるように、子どもは喜びの方に伸びていく。子どもは本来伸びていく力を持っています。私たち大人は、気になることばかりに目が行きがちです。そしてガミガミ。「どうしてそういうことするの」「なぜ分からないの」と子どもをどんどん追い詰めていきます。教員として親として譲れないこと引いてはいけないことはあり、厳しく指導しなければならない時もあります。しかしそれ以上に子どもたちの周りには私たちが、子どもの成長を心から喜び、子どもを認め褒めてやるのが大切だと思っています。そんな環境の中で子どもたちは芽を出しどんどん伸びていく。我々大人のできることを、しなくてはならない役割ではないかと思えます。



学校をお休みする人が少なくなりました

「子どもたちは毎日がんばって学校に来ていますね」「欠席する子どもが少なくなりました」保健室の養護教諭と最近よくこんな話をします。

羽合小学校は中部で一番児童数が多い大規模校なので、全員が出席するという事は、難しいのですが、昨年と

	のべ欠席児童数		のべ欠席児童数
昨年度4月	148人	昨年度5月	193人
今年度4月	67人	今年度5月	107人

は明らかに感覚が違っているので調べてみると表のような結果でした。

今年は3月の約1ヶ月間、学校は臨時休校となりました。家にいる時間が長くて早く学校に行きたい、家にいるより学校の方が楽しいと思っていた子どもが多かったからかは分かりませんが、子どもたちが元気に登校してくれていることをうれしく思います。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響で、学校行事等が延期や中止となり、単調な生活が続く中でストレスを抱える子どももいるように思います。学校でもリラックスする時間や楽しい時間をつくりながらケアしていこうと思っていますが、保護者の皆様も子どもの話をしっかり聞いていただき、心の安定が図れるようご協力をお願いします。